

夢を共有して乗り切り、

循環型社会の形成に

(社)日本環境衛生施設工業会
会長 藤村 宏幸



どうも皆さんこんばんは。本日は大変お忙しい中、第47回総会あとの懇親会にご臨席賜りましてありがとうございます。特に、環境省の南川部長、由田課長はじめ幹部の皆様方、そして学識経験者の皆様方、関係諸団体の幹部の皆様方にはおいていただきましてありがとうございます。また、日ごろ大変お世話になっておりまして、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

先程の総会と同じことを言うようですが、日本経済は米国、東南アジア、特に中国の好況の影響、デジタル家電の好調に支えられて非常に明るさを取り戻しつつあります。昨今は民間の設備投資とか、あるいは消費におきまして好調になりつつあるというような感じも持っております。しかし、今日お集まりの皆様方のお仕事の分野というのは、それとはちょっと違っておりまして、あまり明るくはないという状態でございます。しかし環境省の皆様方には循環型社会構築に向かって「固形廃棄物の適正処理」、あるいは「汚泥再生センターにおけるリンの回収」等、新たな施策を含めまして循環型社会の構築に向かっての力強い施策を推進していただいていることを大変ありがたく思っております。私たち会員は、過去の技術的な蓄積とそして新しい技術をどんどん準備することによりまして、その趣旨に沿った活動を強化し、お役に立っていければと思っております。

先程も副会長の森下さんに「今日はどうも例年に比べて少ないんじゃないか」と言ったら「そうじゃない」と「例年通りだ」とおっしゃる。これはものを見る目も見方がございまして、気分がいいときは気分良く見えますし、ちょっと沈んでいるときは何を見ても悲しく見えるというのがどうも人間のようでございます。そういう意味で

ちょっと元気がないかなという感じがしてしょうがないわけで、さっきから考えていたのですが、何か元気付けるいい方法がないか・・・と。

まあこれは仕事がたくさん出れば一番いいんですが、名前を変えるのもいいかなと。焼却場と言っているからどうも駄目なんじゃないかと。やはり、焼却場というのを名前を変えて、ごみ発電所とか固形物リサイクル（廃棄物からエネルギー）センターとか、何か焼却場という名前を使わないようにすれば、焼却場の予算が削除されても発電所の予算が増えるということでもいいんじゃないかという感じもするわけです。実はこういう場だから言うわけじゃないんですが、平生言っているので言わせていただくんですが、炭酸ガスを COP3 で 90 年度比 6 パーセントの削減ということで、力強い施策が打ち出されているわけです。

その中に供給源と需要のほうと両面あるわけですが、需要のほうはかなり節電しなさいとか、あるいはトップランナー方式と言いまして、一番効率のいいものを大いに使いましょうとか、家電の販売店に対しても省エネ機器をたくさん売ったときには表彰しますよとか、いろんな施策が実は採られています。産業界も目標を作りまして、自主的にそれに対して努力しているわけです。

しかし、供給の面で非常に問題が有るのではないか。例えば原子力発電というのは、12 パーセントを 2010 年には 15 パーセントにします。これはもう完全に頓挫しているわけですし、LNG の 13 パーセントを 1 パーセントかさ上げしようとか、これは大体いっているんじゃないか。自然エネルギーとか、今のごみ、そのような再生エネルギーと言われている新エネルギーの分野は 1.2 パーセントを 3 パーセントにいたします。

その中で主なるものというのは「ごみ」なんです。・・・バイオマス。ところがバイオマス発電というのが大半を占めているわけですが、バイオマス発電に対して果たしてどういう手が打たれてきたのかと・・・2010年にはごみ発電については、5千万トンのごみによって400万キロワットの電力を供給いたしますというのが供給面でうたわれているわけですが、それ程進んでいない。ですから、先程申し上げたように、ごみ焼却場というのはやめて、ごみ発電所にするならば、これは国家ポリシーですから、国家のエネルギー対策としてもっと強力な施策が採られるべきであるというふうにも思います。

外国におきましても、ごみをバイオマスと見るか見ないかという問題があるわけですが、何とかバイオマスに組み込まれるということになっているようでございますけれども、アメリカにおいても西ドイツにおいてもバイオマス発電というのは強力に進めようとしているわけです。ですから、

ぜひその辺、これは私たちも、今技術的にはバイオマス発電で高効率発電を行う能力を持っているわけでございますので、その辺を主体にしたことをやるには名前を変えたほうがいいかなと。そういうふうに思ったりしているわけです。

こういう場にそぐわないことではございますが、いずれにしても何か夢を持って頑張らないと乗り切れませんので、大いに皆さん方と一緒に夢を共有して循環型社会の形成のためにわれわれが何をできるか、よく相談しながらこれから進んでいきたいし、またそれに適合した技術の開発をなお一層力強く進めるといふことにいたしたいと思っております。

何れにしろ先輩の方々のご指導を仰がないとこの辺は進まないわけでございますので、関係者一同引続いて先輩の皆様方のご指導をお願いいたします。ごあいさついたします。

どうもありがとうございました。